



平成 24 年 2 月 14 日

各 位

会 社 名 藤田観光株式会社
代表者名 代表取締役社長 末澤 和政
(コード：9722、東・大第一部)
問合せ先 取締役管理本部副本部長 藁科 卓也
(TEL. 03-5981-7723)

業績予想値と決算値との差異、特別損失の計上および配当予想の修正に関するお知らせ

平成 23 年 5 月 13 日に公表いたしました平成 23 年 12 月期（平成 23 年 1 月 1 日～平成 23 年 12 月 31 日）の通期連結業績予想値と本日公表の決算値に差異が生じたのでお知らせいたします。併せて、特別損失の計上および配当予想の修正についてもお知らせいたします。

1. 業績予想値との差異

(金額の単位：百万円)

平成 23 年 12 月期通期連結業績予想値と実績値との差異(平成 23 年 1 月 1 日～平成 23 年 12 月 31 日)

	連結売上高	連結営業利益	連結経常利益	連結当期純利益	1株当たり 連結当期純利益
前回発表予想 (A)	55,000	300	0	△3,500	△29円47銭
当期実績値 (B)	57,371	1,318	1,042	△3,544	△29円84銭
増減額 (B-A)	2,371	1,018	1,042	△44	
増減率 (%)	4.3	339.5	—	—	
(参考) 前期連結実績 (平成 22 年 12 月期)	64,249	2,140	1,828	227	1円96銭

2. 差異の理由

震災直後の急激な減収に対応すべく、集客や稼働を重視した販売活動に注力した結果、下期以降において宿泊部門の稼働が順調に推移した他、コスト削減の効果もあり、連結売上高、連結営業利益、連結経常利益は前回予想を上回りました。また、特別損失の計上が前回予想を上回ったことにより、連結当期純利益は前回予想並みとなりました。

3. 特別損失の計上について

①契約損失引当金繰入額の計上 (連結決算)

連結子会社の不動産賃貸借契約から発生する損失について、解約不能期間の見込額である 1,597 百万円を引当し、特別損失に計上いたしました。

②減損損失の計上 (連結および個別決算)

ゴルフ場事業を行う連結子会社が所有する固定資産など、収益性が低下した資産を中心に、連結決算で 1,053 百万円、個別決算で 154 百万円の減損損失を特別損失に計上いたしました。

③投資有価証券評価損の計上 (連結および個別決算)

当社および連結子会社が保有する「その他有価証券」に区分される投資有価証券の一部について、減損処理による投資有価証券評価損を計上する必要が生じ、平成 23 年 12 月期 第 3 四半期における計上から四半期洗替え法による洗替えを行い、連結決算で 883 百万円、個別決算で 881 百万円を特別損失に計上いたしました。

④関係会社事業損失引当金繰入額および貸倒引当金繰入額の計上（個別決算）

関係会社の事業の損失に備えるため、当該会社に対する債権金額について貸倒引当金繰入額 950 百万円を、また債権金額を超えて当社が負担することとなる損失見込額について関係会社事業損失引当金繰入額 1,285 百万円を、それぞれ特別損失に計上いたしました。なお、連結上は相殺消去されるため、連結決算での計上はありません。

上記の他、災害による損失など、連結全体で 4,892 百万円の特別損失を計上いたしました。

4. 配当予想の修正について

	年間配当金		
	第2四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭
前回予想（平成 23 年 5 月 13 日発表）		(未定)	(未定)
今回修正予想		4.00	4.00
当期実績	0.00		
前期実績（平成 22 年 12 月期）	0.00	5.00	5.00

5. 配当予想の修正の理由

当社は、剰余金の配当にあたっては、株主の皆様への還元十分に配慮し、今後の企業体質の一層の強化と事業展開に活用する内部留保を勘案のうえ、業績に応じた配当を行うことを基本方針としております。

当期は、来期以降に実施予定の「事業構造改革」へ向けた施策の一環などにより大幅な純損失の計上となりました。しかし、経常損益は黒字を確保したことや、継続的かつ安定的な配当の維持などを勘案し、従来未定としておりました期末配当および年間配当につきましては、前期実績比 1 円減配の 1 株当たり 4 円とさせていただきます。

以 上